

# 横井小楠講座（会場、オン・ライン） 第4回

秋津公民館

2023.2.12

- 1 天皇は、権力を得るための道具として権力を狙う者に利用されてきた。
  - (1) 藤原氏の権力掌握
  - (2) 平氏・源氏の権力闘争（壇ノ浦の戦い）
  - (3) 天皇（上皇）が権力を狙うと、権力者から追放される。（後鳥羽上皇・後醍醐天皇）
  - (4) 徳川家康は、至れり尽くせりで天皇を駕籠の鳥に。江戸に皇室からの人質。
  - (5) 幕府から権力を奪おうとする頑冥固陋たちに、毒殺された幕府寄りの孝明天皇。
  - (6) 戊辰戦争、明治天皇（西）vs 輪王寺宮能久親王（東北）
  - (7) 昭和天皇への下剋上（S10.国体明徴声明：皇国、万世一系、現人神）

天皇を「国家元首」にする狙いは、一旦権力を天皇に集めた後、天皇を「神」にして、実質的権力を握ろうとする者の謀計にほかならない。（歴史が証明する）

※中国、日本、各国の歴史を涉猟した小楠が、尊皇攘夷者（神道）を無識・無策の者、国学者流の見識は狂っているとして「隘陋(あいろう)」と呼び、「国家蒼生の道を過らす」と断言した理由はここにある。

- 2 統一教会・岸、安倍家三代（TV放送された情報(OSInt)を集約）と「国家蒼生の道」
  - (1) 統一教会内の文書
  - (2) 政治と連動する統一教会
  - (3) 違和感のある政治の出現
  - (4) 世界基督教統一教会の基盤教義（補完した参考本白鳥春彦著：「聖書」がわかる）
- 3 五箇条の御誓文（民主主義）v s 全体主義の推移と薩長・薩長、坂本龍馬

- 4 横井小楠を学ぶと、日本の近現代史がよくわかる。

小楠の予言通り、「隘陋」が国家蒼生の道を過らせ、戦争を引き起こし、国民に塗炭の苦しみを与え、310万人の犠牲を強いた事実。数十万人の孤児を生み出した事実。そして、真しな戦争への反省と分析がない現実。

アメリカにいた二人の甥に、「新政府もあと両三年には安泰となる。」と手紙を送って1年後に「隘陋（あいろう）」に暗殺された。あと2年小楠が生きていれば、日本は平和で安定した国となって戦争をすることはなかった。横井小楠を中心に、歴史を見ていくと矛盾のない真実の歴史が見えてくる。横井小楠を学ぶ価値はここにある。

- ◎ 「四時軒」てなに？ の世界
- ◎ 「横井小楠」てだれ？ の世界
- ◎ 「薩長・薩長、坂本龍馬」 の世界

を今後も続けるのもよし。新しい発想で外に打って出るもよし。動けば、その動きが次の動きを引き起こす可能性もまた生まれる。

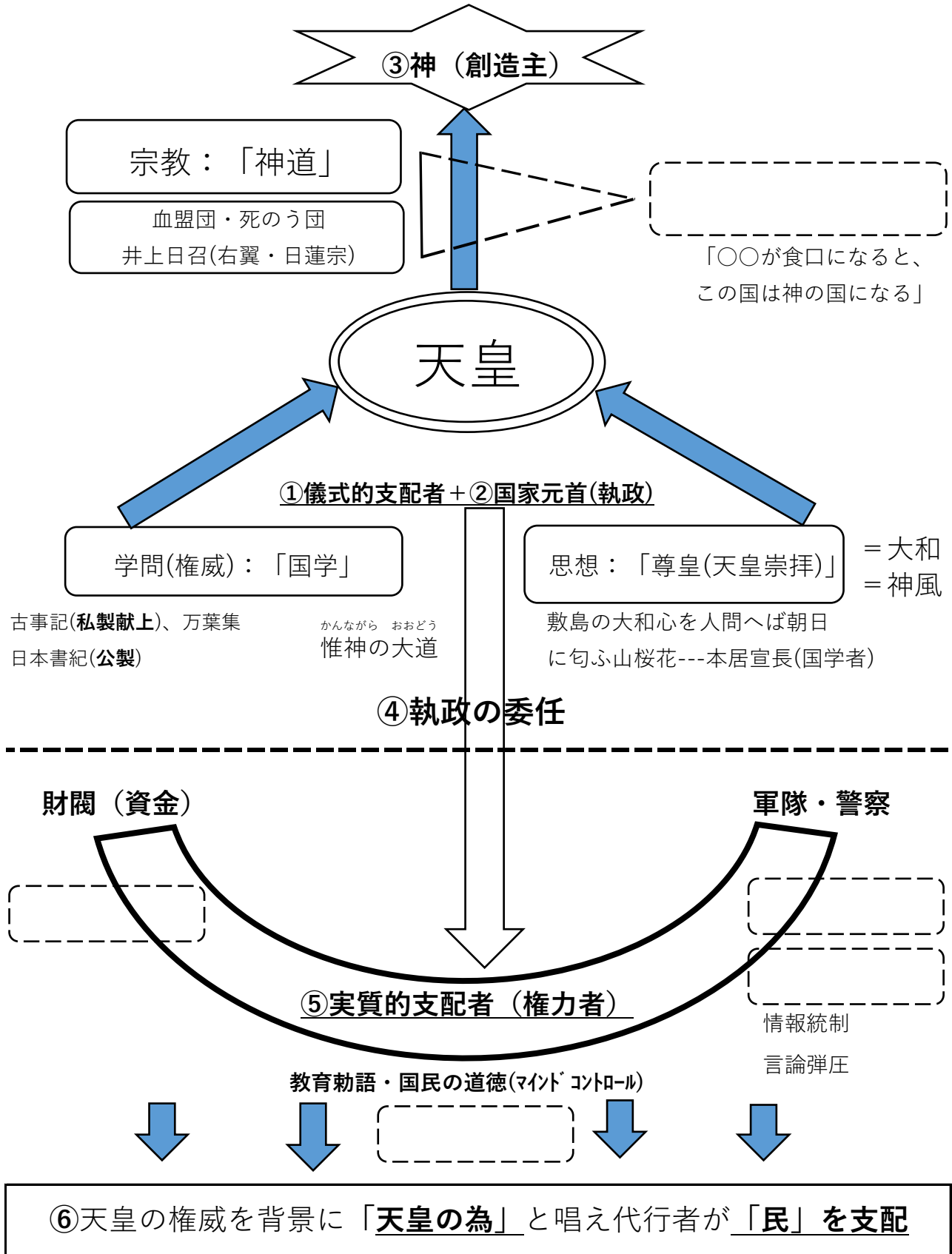
「四時軒」 → 「四時軒」  
「横井小楠」 → 「横井小楠」

対外的にも「冠」をかぶせて熊本を紹介する。修学旅行等で子供たちが来るようになれば、小楠を理解し、思想に学び、小楠が願ったような日本をつくる人材が育つ。

小楠12歳の言葉：「経国の志を興し、他日国事の振興に当たらん」

# 天皇を利用した独裁の構築=「国家蒼生の道を過らす」(小楠)

※大戦時の状況を例に、歴史を渉猟した「小楠の言葉の意味」を解き明かす。



小楠：「何でも民のため、国を治むるは民のため、君を立てて政をなす、皆民のため」という小楠の民主主義とは水と油。小楠は、国家蒼生の道を過らす「陰陋」と断じた。

